

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ピアノ 表現2	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	30 時間
単位数	2 単位	授業形態	演習		
教科書/教材	毎回レジュメ・目標を配布する。楽譜：教則本、プリント、「ポケットいっぱいのうた」				
担当教員情報					
担当教員	藤田 美保		実務経験の有無・職種	有・音楽教諭	
学習目的					
音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現の各領域を横断した「表現」に関する知識や保育技術の習得を目的としている。幼児教育とは何なのかを考察し、幼児教育の中の「ピアノ表現」の位置づけを理解できるようになるために、主にピアノを使用し、幼児教育の重要性を理解し、幼児に対する情操教育の重要性を学ぶことを目的としている。「ピアノ表現1」の基礎に基づき、更に多くの幼児の曲が弾けるようになることを目的とする。					
到達目標					
学生が日々活動している社会の中で自分を位置付けることを目標としている。ピアノだからこそ表現できることや、幼児教育の更なる重要性を考えながら、ピアノ技術の応用を身につけることが目標である。また、幼児教育についてや保育内容について理解し、ピアノを使った弾き歌いによるピアノと歌との表現方法、保育内で必要な弾き歌いの知識をも合わせて習得することを目標とし、音楽を身近なものと幼児がとらえられるような環境を整えることを追及する。					
教育方法等					
授業概要	「ピアノ表現1」に引き続き、楽譜「バイエル」を使って、ピアノを弾くための基礎から学び、楽譜を読むために必要な知識を身につけ、ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身につける。また、保育現場で使用される曲を中心に、更に実用可能なレベルに仕上げる。実技習得は、各自の習得度に合わせて個人的に指導を行う。弾き歌いに関しては「ポケットいっぱいのうた」を使用し、伴奏をメロディーに合わせたコードを選択しながら歌う方法で弾き歌いを演習する。実習に向けて実践練習を繰り返し行う。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を基に、ピアノに真摯に向きあう。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。楽譜を忘れたものは授業は受けられない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	課題	30%	毎回提示する課題についての仕上がり度を評価する		
	平常点	30%	ピアノに向き合う姿勢、授業態度について評価する		
	試験	40%	試験における課題曲の完成度を評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ピアノ表現1復習		ピアノ表現1で仕上げた曲を実践する		
2回	「秋の歌」の課題曲の考察		実習に備えて季節の歌の課題を決定し実践する		
3回	「秋の歌」のピアノ実践演習①		課題曲の実践演習①をおこなう		
4回	「秋の歌」のピアノ実践演習②		課題曲の実践演習②をおこなう		
5回	「秋の歌」のピアノ実践演習③		課題曲の実践演習③をおこなう		
6回	中間発表①		「秋の歌」課題曲の成果発表をおこなう		
7回	「冬の歌」の課題曲の考察		実習に備えて季節の歌の課題を決定し実践する		
8回	「冬の歌」ピアノ実践演習①		課題曲の実践演習①をおこなう		
9回	「冬の歌」ピアノ実践演習②		課題曲の実践演習②をおこなう		
10回	「冬の歌」ピアノ実践演習③		課題曲の実践演習③をおこなう		
11回	中間発表②		「冬の歌」課題曲の成果発表をおこなう		
12回	クリスマスとお正月の歌を考察		実習でのイベントに備えて課題を決定し実践する		
13回	季節の歌についての考察		季節のイベントの必要性和弾き歌いの重要性を考察する		
14回	最終発表準備		発表のための準備と実践演習をおこなう		
15回	発表(試験)		発表(試験)をおこなう		